理不尽を与えることも、大人の役目である。

「不公平だ」で止まる子に育てないための、教育と育成のパラダイムシフト

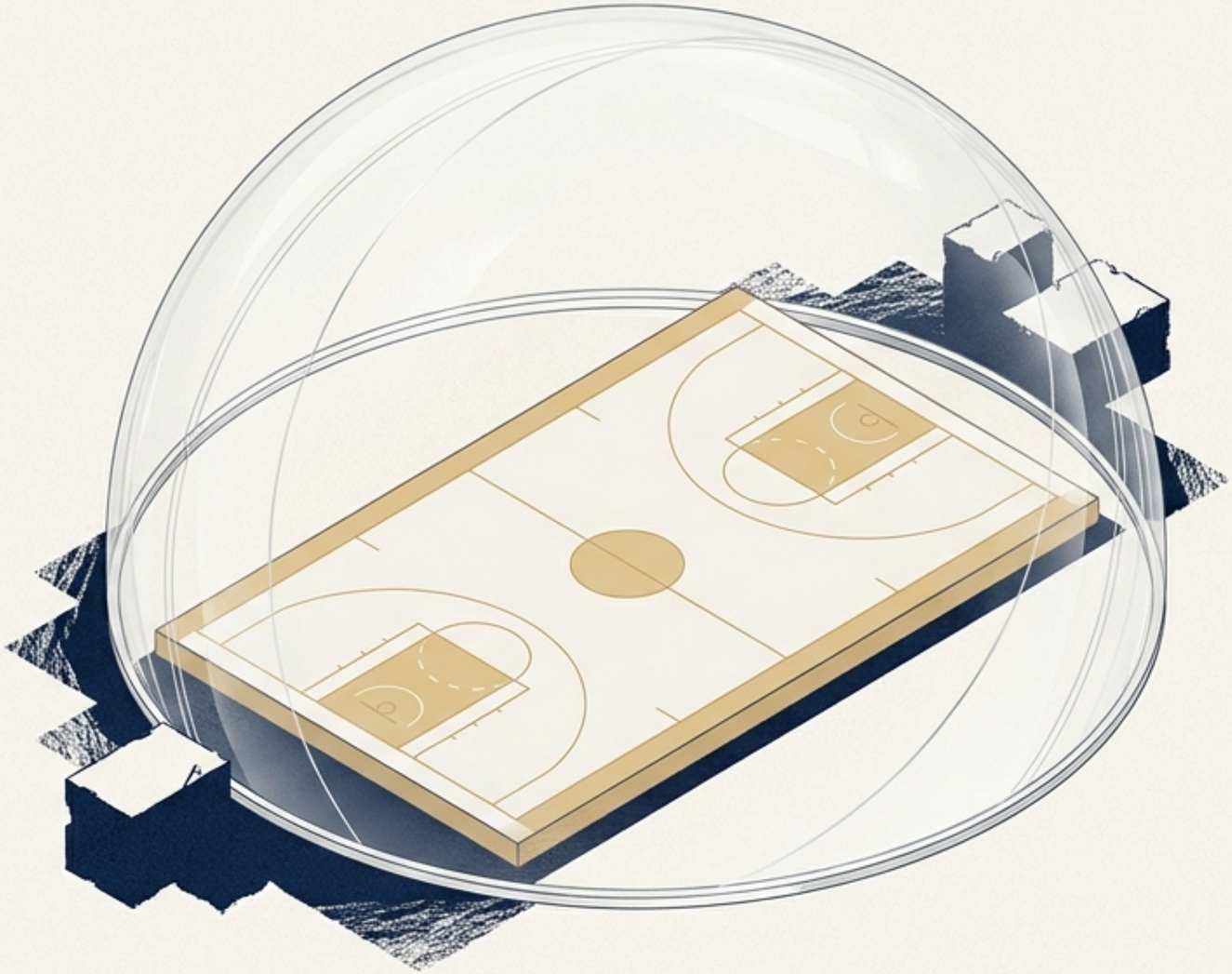


Based on the philosophy of PHOENIX Aichi

Gemini Notebook

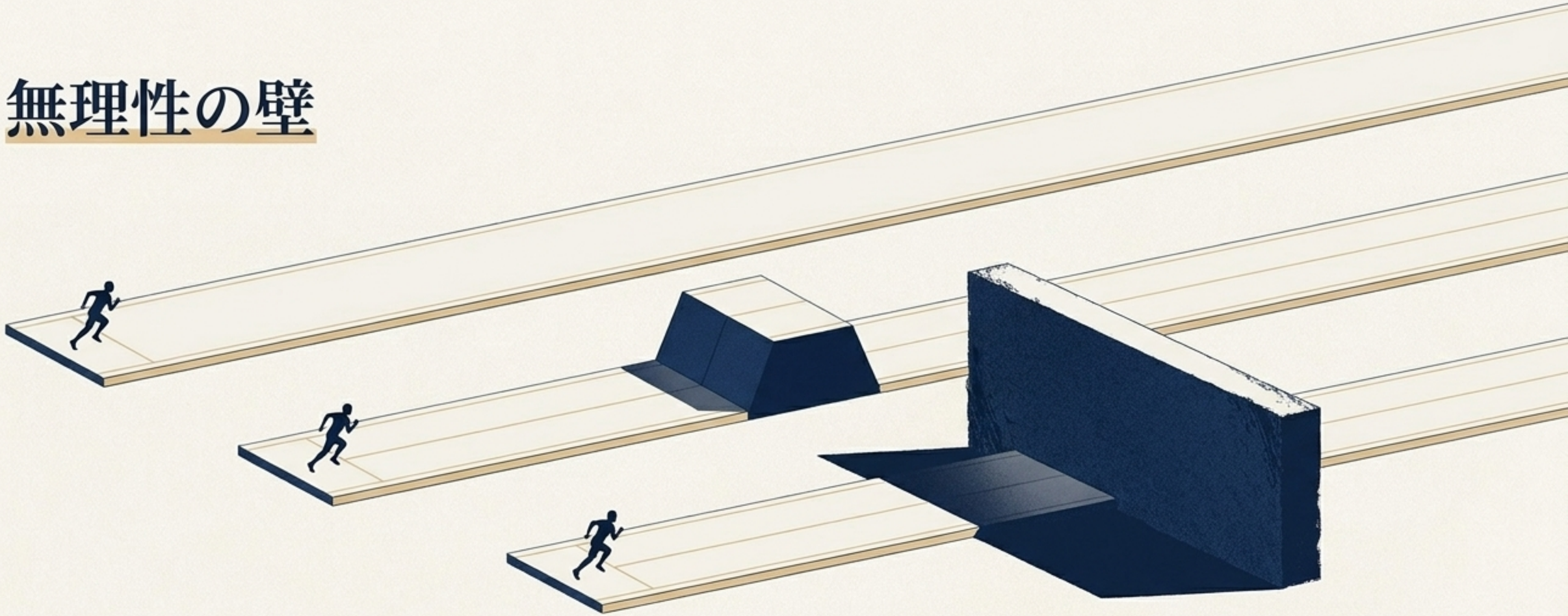
私たちは無意識に、すべての「障害」を取り除こうとする

大人は愛情と責任感から、子供の言い分が正しい時、不公平な条件や困難な壁を即座に排除しようとします。
それは「公平な温室」を守るための自然な行動です。



Gemini Notebook

無理性の壁



しかし現実は、同じ練習をしても同じようには上達しない

生まれた家、才能、与えられる機会。本人が選べない条件で結果が変わる。
自分より練習していない相手に負けることさえある。**それが、スポーツと社会の冷酷な現実です。**

Gemini Notebook

「言い分の正しさ」は、
目の前の課題を解決してくれない

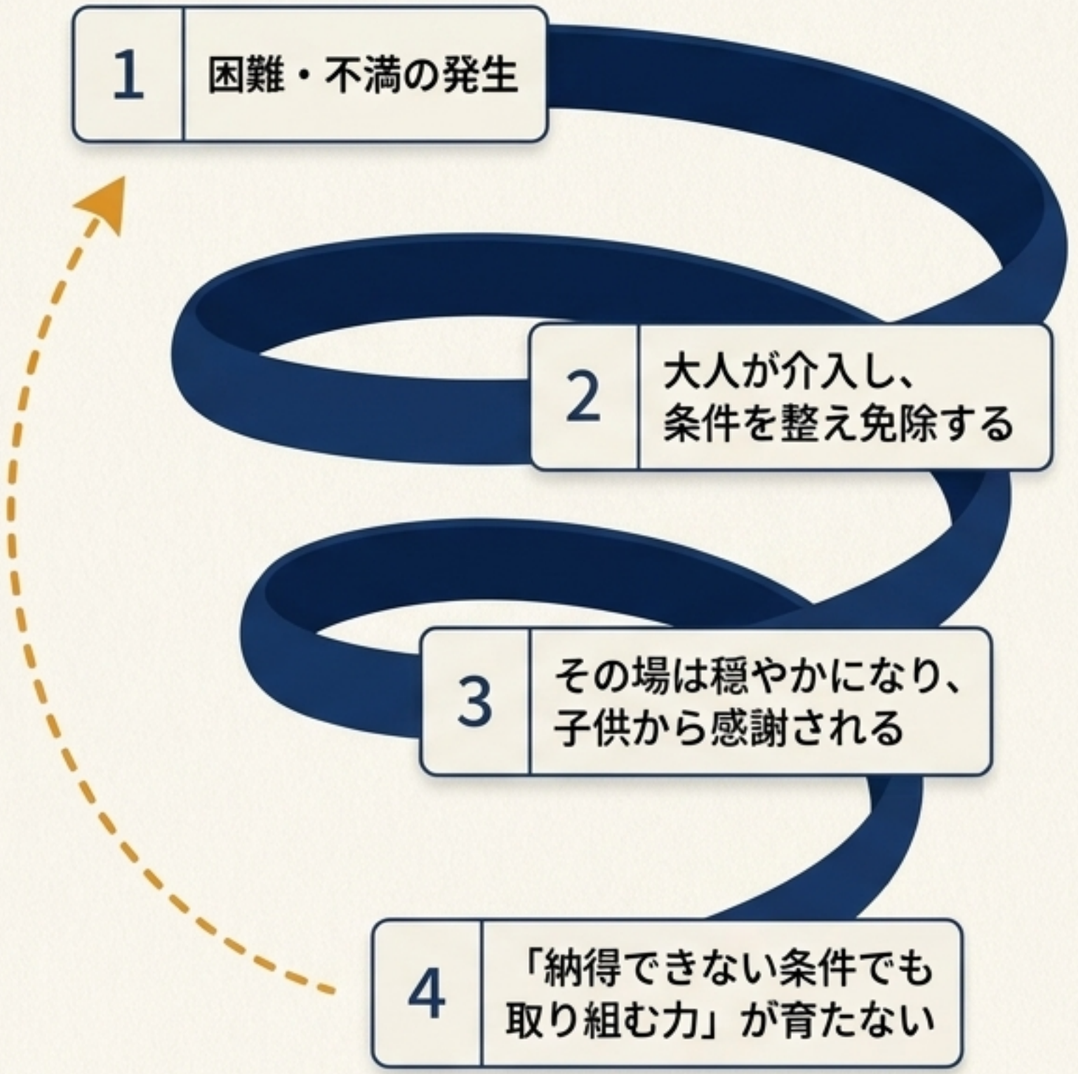
子供の「不公平だ」という主張は、その通りかもしれません。
しかし、正論を武器にしても、立ちはだかる現実は消えません。



Gemini Notebook

介入を繰り返すことで陥る「過保護の負のループ」

大人が毎回条件を整え、目の前の不満を解消すれば、その場は穏やかになります。しかし、それは子供から「理不尽に立ち向かう力」を奪う行為でもあります。



Gemini Notebook

「理不尽を取り除き続けた先で、誰がその子の人生を支えるのか？」

これは、指導者レンがシンさんとの対話で
突きつけられた根源的な問いです。
大人が条件を整えてあげられなくなった未来、
その子の手元には何が残るのでしょうか。



Gemini Notebook

育成のアプローチ：「目の前の解決」か、「未来への教育」か

	パラダイムA: 現状維持	パラダイムB: 真の教育
対応	理不尽を取り除く	理不尽を残し、問いを投げる
短期的な結果	穏やかな場、感謝される	反発される、葛藤が生まれる
失われるもの	未来を生き抜く自立心	目先の好感
得られるもの	大人の自己満足	納得できない条件でも取り組む力

Gemini Notebook

「あなたは悪くない」で会話を閉じない

公平になるまで何もできないままでは、自分の人生を周囲に預けることになります。
大人が差し出すべきは、同情ではなく、前に進むための問いです。

~~「不公平だね」~~

「その条件で、どうする？」

Gemini Notebook

社会に出るために必要な、二つの装備

現状の受容

「不公平だ」と正しく
認識・主張できること

×

自己決定

「では、自分はどうする」
と考えられること

＝

未来の理不尽に立ち向かい、
社会を生き抜く力

Gemini Notebook

介入（盾になる）



伴走（問いを投げる）



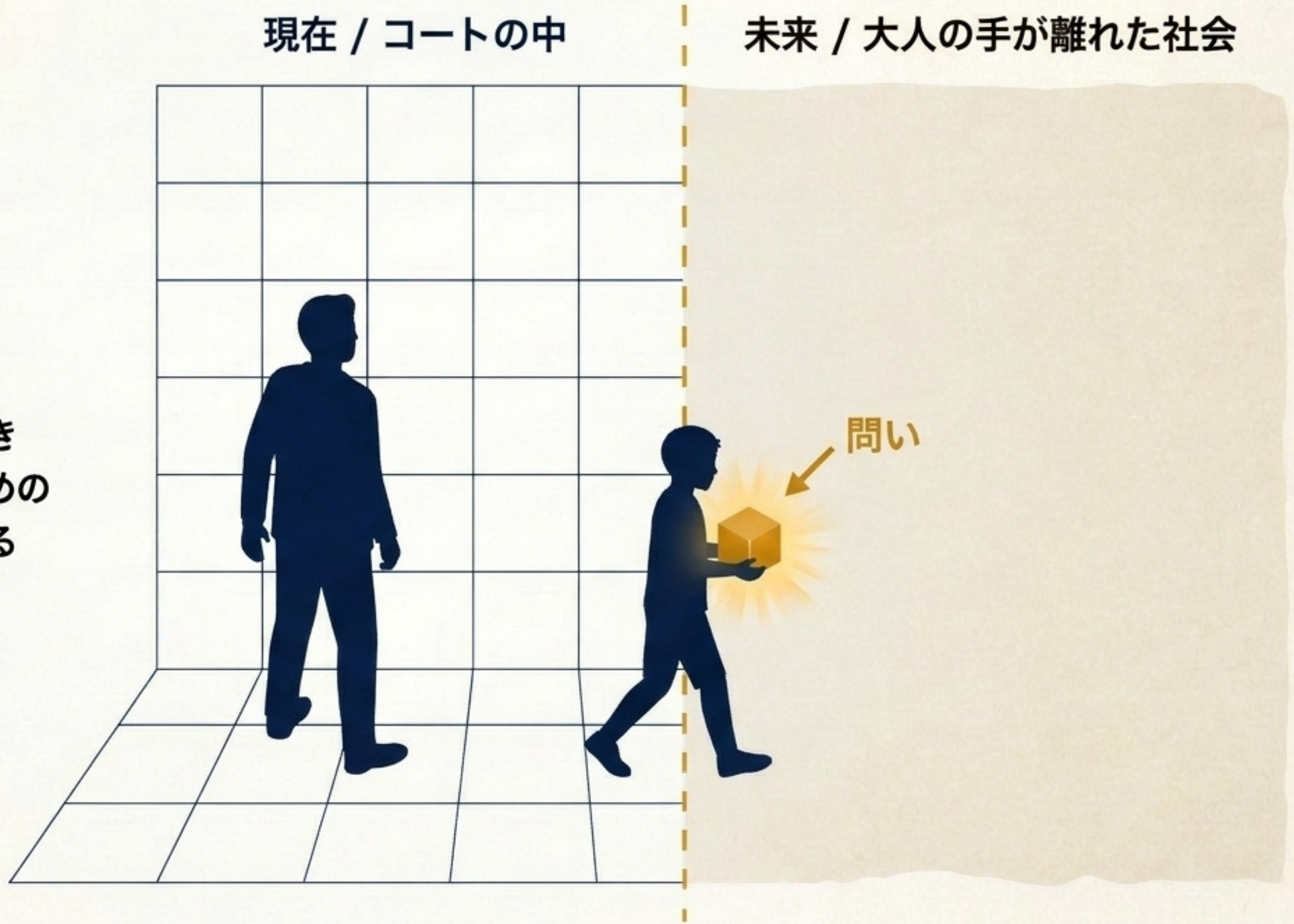
大人の立ち位置を変える

障害の前に立ち塞がり盾になること（介入）から、障害の横に立ち、背中を見守りながら共に道を探すこと（伴走）へ。今の不満を取り除くだけが、子供を守ることではありません。

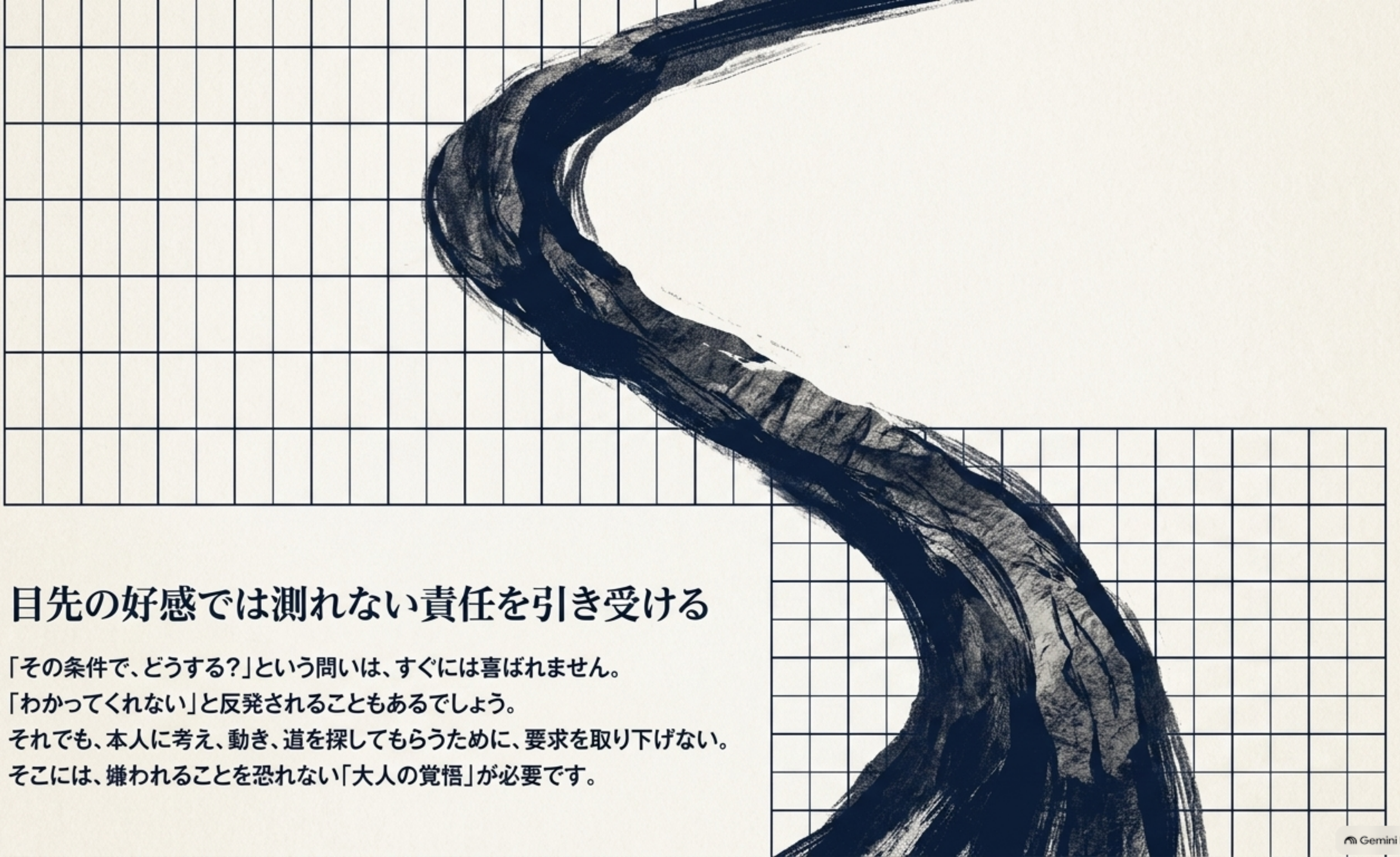
Gemini Notebook

教育における「責任領域」の境界線

大人の介入が及ぶのは
今のコート内だけです。
大人の本当の仕事は、介入できない未来の境界線を越えるための「問い」と「覚悟」を持たせることです。



Gemini Notebook



目先の好感では測れない責任を引き受ける

「その条件で、どうする？」という問いは、すぐには喜ばれません。
「わかってくれない」と反発されることもあるでしょう。
それでも、本人に考え、動き、道を探してもらうために、要求を取り下げない。
そこには、嫌われることを恐れない「大人の覚悟」が必要です。

Gemini Notebook



理不尽を与えることも、大人の役目。

悔しさを抱えたまま、次に何をするか。
それを問うことこそが、未来の理不尽に立ち向かう力を育てる真の教育です。
彼らが自分の足で、荒野を歩き出せるように。

Gemini Notebook